



愛の献血奉仕活動が十月二十日に西国分公民館で行われました。
外科手術の複雑化・大型化により、慢性的な血液不足が続いている中、献血は健康体の皆様に依存して、隣人の尊い生命保持に役立っています。
また、この献血活動はライオンズクラブが地域（西国分献血推進委員会・女性の会・まちづくり委員会・西国分小学校PTA）の人たちと行う象徴的な奉仕活動です。

かわら版

久留米リンドウ
ライオンズクラブ



平成 21 年 10 月 16 日（金）
シンナー・覚醒剤等薬物禍撲滅キャンペーン
於）西鉄久留米バスセンター



《早朝清掃》
平成二十一年十月二十三日（金）
於）日吉神社



◆十一月誕生者◆
L. 穴見 孝義
昭和六年十一月三十日
L. 城戸 芳巳
昭和十年十一月十八日



◆十月誕生者◆
L. 江頭 章二
昭和十六年十月一日
L. 鹿子嶋 傑
昭和四一年十月三十日



L. 泉元
奥様（春枝様）
十月三十一日（逝去）六十四歳



【訃報】
L. 飛永和雄
ご尊父様（勝次様）
十月十八日ご逝去 九十九歳

つれづれなるままに 老青江
「人間は金属疲労が出てからが本物である」
長い人生を生きてくると、人間も苦勞・悲しみが降り積もる。体が傷むから心が弱くなるのかその逆なのか？
若い頃は向こう見ずで強かった鼻っ柱もだんだん弱くなってきた、マア大したことじゃないし、最後は収まる所に収まるから大丈夫と、先が読めてくる。
「金属疲労」は劣化の結果ではあるものの、先が読めると言う利点をもたらす。経験を積み、それが若干の見識となる。
見逃す。聞き逃す。知らぬぶり。という新たな生き方を発見する。
世の中は複雑に絡み合っており、余りに一つを押しまくると、他へ悪影響を及ぼすことを学習する。
「金属疲労」の対応もなかなか多事多難で、余りに放漫でもならず、そのへんのかねあいの難しさも、オトナの修行といえる。
急がずにゆっくり歩く・・・
ゆっくりでもこんなに遠くまで来ることが出来る・・・